

会社に雇われることなく、自分の得意分野を生かせる働き方。
インディペンデント・コントラクター(IC)と呼ばれる独立請負業者が注目されている。
ここでは毎月2名のICを紹介。その魅力と彼らの実態を中心にレポート。

憧れの地・北海道で独立。 地元企業の事業戦略をサポート

大熊一精さん(37歳)
事業戦略コンサルタント



㈲大熊事務所
QZEO1205@nifty.com

最近ちまたでは、沖縄の魅力に取りつかれ、仕事を捨て憧れの地での生活を夢見て移住する人が増えているらしいが、大手金融系総研を2002年春に退職した大熊一精さんもそのひとり。ただし、彼の憧れの地は北海道だった。「独立する、北海道で暮らす、それだけを決めて退職しました。何をやるかはゆっくり考えよう」と、雇用保険と貯金で生活。趣味のサッカー観戦に明け暮れるうちに貯金も底をつき、「気づいたら9カ月過ぎてまして……」

思い出話のようにのんきに語る大熊さんだが、独立の意志は強かったのだという。前職では調査業務を8年間、企画業務を4年間担当。とりわけ企画業務担当時代には、銀行の法人客を対象としたセミナーを企画・運営し、数多くの経営者へ話をする機会を得たこ

PROFILE

1967年、福島県生まれ。大学卒業後、富士総合研究所(現・みずほ情報総研)に入社。12年間勤務し2002年3月に退職。翌月より北海道に移り住み、事業戦略コンサルタントとして独立。中小企業戦略支援法の改正を受け2003年7月には㈲大熊事務所を資本金1円で設立。

WORK

会社の名前や世間体を考えずに自由に行き、誰の指示も決裁も仰がない分、効率がいい。

HOLIDAY

前職ほど長期休暇は取れなくなった。ただし、一日の中で自由にON/OFFをつくれるのは。

MONEY

初年度は実質4カ月の稼働で売上高は400万円。今期1000万円を見込み、収入も前職より微増。

SATISFACTION

前職は会社の看板で付き合ってくれていると満足したが、今は個人で信頼を得ていると満足。

とで独立を意識するようになった。「8億円もの部の予算管理を任せられるまでになったキャリアや、在職中に2度ヘッドハンティングの声を掛かったことも自信につながり、独立して自分の力を試してみたいという気持ちは強く持っていましたね」

さて、貯金が底をつき出した大熊さんに救いの手を差し伸べてくれたのは知人たちだった。前職の同僚は単発の調査業務を発注してくれた。その後も前職の人脈で数件受注。そして、北海道に住む知人からは道内のベンチャー企業育成を目的に投資やコンサルティングを行うHVC戦略研究所を紹介されるのだが、ここから大熊さんの事業

調査のために月1、2回は東京出張あり。スケジュール中は野口悠紹雄氏の「超」整理法で推奨のもの

は一気に軌道に乗るようになった。「調査業務を単発で依頼されました。自社で受けたものの手が回らず、外注先を探していたというのが本当のところだと思っただけです。私が提出した調査報告書を見て、「期待以上にできる」と思ってもらえたようで、どんどん仕事を回していただけるようになりました」

現在は、HVC戦略研究所の親会社が発行するインキューションオフィスに入居し業務を行っている。同社との契約は時給制だったが、今年の4月からは案件ごとの受注額に応じたコミッション制に契約更改した。官公庁の委託調査・研究から道内のベンチャー企業の事業戦略立案、資金調達など当時7、8本の業務が同時進行しているという。会社設立準備中の個人のエンジニアからは「事業戦略を考える外部取締役として迎えてほしい」と、また別のコンサルティング会社からは「新規事業を社内ベンチャーの形で立ち上げるので事業計画立案を手伝ってほしい」といった声も掛かっているそうだ。

「北海道で働くことでは、東京での勤務経験やコネクションがあることは強みになります。独立していろんな働き方があるとわかり、仕事が取れるようになってやっとならではのやりがいを得られるようになった。前の会社からは今でも仕事の依頼があります。いい関係を保って退職することの重要性をあらためて感じています」